

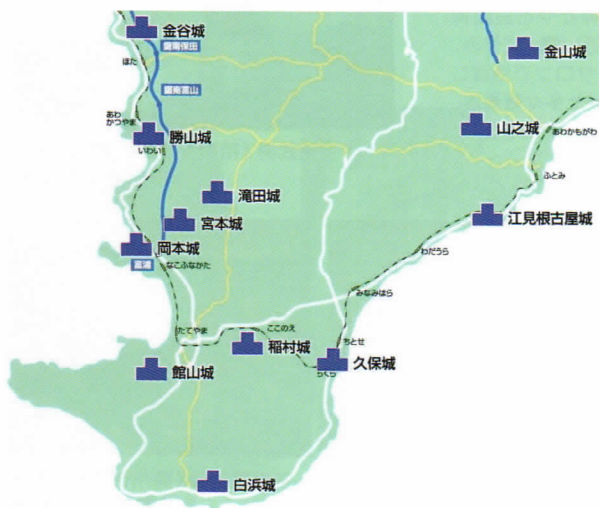
八犬伝のふるさと・里見のまち

15世紀半ばから170年の間、海の戦国大名・里見氏が、安房国を治めた。上野国榛名(群馬県)の新田氏を出自とし、初代・里見義実が白浜城を築いた。やがて安房の中心地に稲村城を築き、義通が国主となった。その子義豊のとき、1533(天文2)年に天文の内乱が起き、翌年には犬掛の合戦で討ち取られ、家督は分家筋の義堯にわたった。これ以降、稲村城は廃城となる。

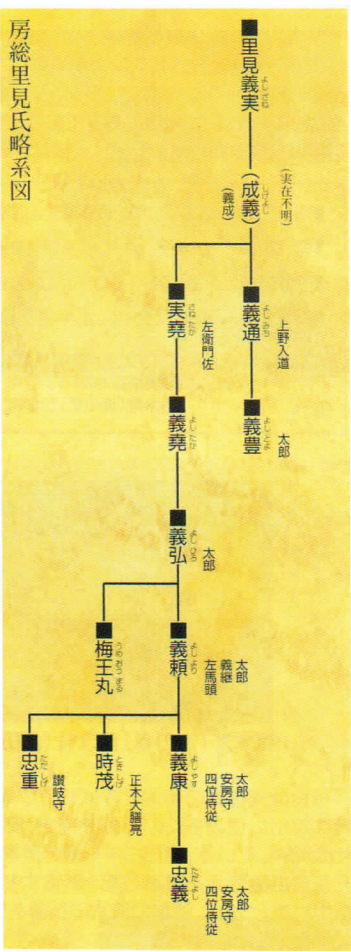
その後、上総国へ進出した里見氏は、内海(東京湾)の制海権をめぐり、小田原北条氏と40年にわたって攻防を繰り返したが、義頼の平和外交策によって和睦が結ばれ、海上交易が活発になっていった。

16世紀後半には、豊富秀吉から上総領を没収された義康は館山城へ移り、高ノ島を流通の湊として新しい領国支配をおこない、館山は城下町として発展した。関ヶ原の戦いで徳川についた恩賞を受け、関東最大の外様大名となったが、31歳で没した。

1614(慶長19)年、里見氏は改易を言い渡され、館山城は破却され、直轄領となった。最後の国主・忠義は伯耆国倉吉(鳥取県)に移封され、8年後に29歳で亡くなった。倉吉の神社に残る棟札には、安房の領民を心配する忠義の想いが書き残されている。



房総里見氏略系図

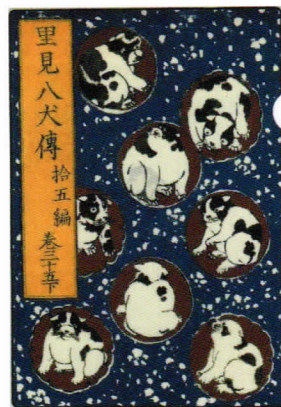


現在、館山城跡は市立博物館のある城山公園として市民に愛される憩いの場である。

稲村城跡は、後世にのこそうと願う市民の保存活動が実り、2012年岡本城跡とともに、国指定史跡となった。

里見氏が改易されて200年後の1814(文化11)年、江戸深川生まれの曲亭馬琴が28年かけて長編小説『南総里見八犬伝』を書きあげた。勸善懲悪をテーマとして、儒教の「仁義礼智忠信孝悌」と仏教の因果応報を織り交ぜて描かれている。里見義実の娘・伏姫と愛犬・八房の縁に導かれ、犬の名前と霊玉をもつ8人の若者が義兄弟となって、安房国を守るという物語。

馬琴は一度も安房を訪れることなく、『房総志料』(中村国香著)などの文献を参考にして、里見氏をモデルに書いたといわれる。富山、稲村城、滝田城など実在する地名やゆかりの人物が多く登場する。



八犬伝博物館と戦国コスプレイヤー

江戸のベストセラーとなった『八犬伝』は、時代を超えて歌舞伎や映画、人形劇などに演じられ、現代では『ドラゴンボール』などアニメやゲームのモチーフになっている。館山城山公園の頂上にある天守閣は、全国唯一の八犬伝博物館である。



紙芝居『南総里見八犬伝』(愛沢彰子画)

- 仁 … 思いやり、情け深い心
- 義 … 正しいおこない
- 礼 … 礼儀、礼節
- 智 … 智恵、知性
- 忠 … まごころ、忠義
- 信 … 信じる心、信頼
- 孝 … 親に奉仕すること
- 悌 … 年上を敬うこと